

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

5月号

第59巻 第4号
2014年

無料
Free

も
く
じ

- 今月の1枚…………… 1ページ
・長野県環境保全研究所と連携・協力に関する協定を結びました
- 北ア-フィールドガイド…………… 2・3ページ
・雪国に春の到来を告げる雪の芸術「雪形」
- 博物館ひろば…………… 4ページ
・ミュージアムカフェ・ショップ“もるげんろと”がオープンしました
・観光ボランティア研修会を開催
・友の会展示解説ボランティア研修会を開催



調
印
式

長野県環境保全研究所と連携・協力に関する協定を結びました

宮野 典夫

長野県環境保全研究所は、長野県の豊かな自然環境を保全し後世に伝えるため、総合的な調査・研究を行い、その成果を広く県民に伝え普及啓発に取り組んでいます。

市立大町山岳博物館は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を蓄積し、これらを活用した教育普及活動を推進しています。

平成26年3月25日に締結した協定の目的は、両機関が調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することにあります。

これらの目的を果たすために研究・教育・人材育

成・人材交流・情報交換・情報発信等を協議して必要な事項を決め、それらを誠実に実施するよう努めます。

具体的には、リニューアルオープン時に「さんばく研究最前線 - 北アルプスの自然と人 トピックス -」コーナーで研究所の成果をパネル展示しました。今年度は、友の会との共催事業の講師を研究所にお願いし、「こども夏期だいがく」では研究所と共催で事業を実施します。また、調査ではライチョウの生態、高山植物の植生、残雪、氷河などの調査に研究所と協力して取り組む準備を進めているほか、研究成果を、展示などをおして情報発信を行っていく予定です。

(市立大町山岳博物館館長)

北ア フィールドガイド

雪国に春の到来を告げる雪の芸術「雪形」 清水 隆寿

はじめに

春、残雪の雪解けが進み、山肌に浮かんでくる模様に、私たちの祖先は「代かき馬」や「種まき爺さん」などの名前をつけ、農耕の適期を計り、暮らしの目安として受け継いできました。それは山あいの雪国に生きる人々の細やかな自然観察から生まれた、生活の智恵でした。全国各地に残るこうした伝承を集成し、その存在と意義を広く私たちに喚起したのは、昭和 20 年安曇野に疎開し、高山蝶などの研究を並行して深めていた田淵行男氏でした。田淵氏は、昭和 56 年に『山の紋章 雪形』として一書にまとめ、これを契機として一般に「雪形」が周知されるようになり、昭和 59 年には、新版なった岩波書店発行の『広辞苑』にこの「雪形」の項目が収録されるにおよび、全国に認知されるようになってきました。以来、各地でこの雪形の伝承の再発掘が試みられ、雑誌やテレビで紹介され、今では「雪形」到来の報せが、各地の春の訪れを告げる代名詞となり、親しみ深い郷土の文化として全国に発信され、その姿をひと目見ようと全国から人々が訪れるまでになりました。



白馬乗鞍岳の尾長鶏の雪形

大町市においても、詩集『雪形祭』（昭和 57 年）を遺した詩人・金田国武氏など先人の意思を受け継ぎ、毎年「北アルプス雪形まつり」として、子ども達が作った



雪形ウォッチング風景

雪形の詩や絵画、雪形ウォッチングなど様々な趣向が凝らされ、山岳文化の創造に夢を託して、雪形の魅力を発信しているのはご存知のとおりです。ここでは、「北アルプス雪形まつり」の行事の一環として、大町市教育委員会が共催に関わる「雪形ウォッチング」を通して感じた幾つかの思いを書きとめ、本年も開催される「雪形まつり」のご案内をいたします。

北アルプスの雪形の伝承

現在、北アルプス周辺に伝わる伝統的な雪形として、およそ 30 ヶ所ほどの雪形が知られています。

それらの伝承について、各地に書き残された文献との対比を試み、歴史的な裏付けを調べてみたことがあります。とりわけ小谷村には口頭伝承の記録が多く残されており、代表的なものに『小谷四ヶ庄伝説集』（大正 9 年・教育会北部分教場主任会）、『小谷口碑集』（大正 11 年・小池直太郎）、『北安曇郡郷土誌稿』（昭和 5 年・教育会北安曇部会）、『小谷民俗誌』（昭和 54 年・小谷村教育委員会）などが知られています。

これらの記録には膨大な日々の伝承が書き残されていますが、意外なほど雪形に関する伝承が書き留められていないことに驚かされます。もちろん全く雪形が認知されていなかったわけではありません。重要な証言として、大町の爺ヶ岳の事例ですが、『北安曇郡郷土誌稿』（第三輯年中行事第一冊）には、「爺ヶ岳の雪の消え際に種を蒔く爺さんの形が現はれる。『種蒔き爺さんが出た』といふことは何より確かな暦であった。」と平地区の「種蒔き」の伝承として取り上げられていることからわかります。現在、小谷・白馬地域は雪形の宝庫とまで言われていることを思えば、この記録の少なさに戸惑いを覚えます。

かつて田淵行男は『黄色いテント』の中で、次のような文章を書き残しています。「(前略) 雪形の再発掘の仕事は、時期すでに過ぎに失った感が強く、一刻の遅延も許されぬ限界にきているように思われる。というのは、雪形の全盛時代、身をもって体験した貴重な生証人は、明治生れの世代を最後として永久に跡を断ち、直接証言による探索の手がかりが完全に消滅してしまうからである。どうやら私のこの雪形探しも、残念ながらひと足遅かったように思われる。」と述べられています。かつての伝承を探る時、まったくその感を免れ得ませんが、それでも民俗調査の聞き取りの際や古記録に、現在でもこれまで知られていなかった、あるいは等閑視され忘れ去られていた雪形の伝承について接することがあります。

既にどの雪形を指すのか不明なものもありますが、私が古よりお聞きしたその幾つかを記してみます。常盤から見える餓鬼岳の稜線下の「幼児を抱いた母と、風神」などは昔話として伝えられ、五龍岳の「角隠しのおよめさん」、八方尾根の八方池山荘付近の「八の字」、鹿島槍ヶ岳南峰と布引山の間に現れる「白布」は、明治 39 年編『北安曇郡地誌』に「初夏残雪白布を引くに似るに故に南の一峰を布引やまという(後略)」伝承が伝えられていました。あるいは常盤地区から見た爺ヶ岳の第三の「種蒔き爺さん」などの話をお聞きしたりしました。

また冒頭「広辞苑」の話に関わりますが、実は昭和 44 年発

大町市内在住の65歳以上の方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料となります。
大町市内の小学校および中学校に通う児童・生徒の方は、年間を通じて博物館の
観覧料が無料となります。
(※ 入場の際に受付にて、住所・氏名等をご記入ください。)

行の「広辞苑」第2版では、「雪占」という字句が既に掲載されています。白馬村の「代かき馬」などは、かつて雪の解け具合から農耕の出来に関する占いが伝えられていたことも、今では忘れ去られようとしています。このように伝統的な古くから伝えられた雪形が、実はまだまだこの地域にはこうして忘れさらられてしまった事例があるのではと推測されます。故郷に伝わる雪形の掘り起こし。皆さんもご自宅の近くに忘れさられた雪形を再発見するかもしれません。ぜひ古老からの聞き取りに挑戦してみてください。



白馬三山（右端に白馬岳代かき馬の雪形が見えます）

新たな雪形の接し方

かつての農事歴や暮らしの目安とされた雪形ですが、この頃は自分だけの雪形を見つけようと、新たな雪形との接し方を提案することにより、各人がそれぞれの視点から思い思いにイメージを膨らませて岩壁を覗き込む姿は、かつて先人が真摯に自然と向き合い、対話していた時代を想起させてくれます。

あるいは自分だけの農事歴として、この雪形が出てきたらワラビの適期だとか、ミズバショウが芽吹く時期だとか、自然の関連性を感じ取るなど自分だけの自然との接し方も面白いかもしれません。何年にもわたって調べてみれば、より自然を観察し、自然との関わりを身近に感じ、本当の意味でこの地とともに暮らしている実感を味わえるのではないかと思います。

「雪形」を通して、大地に根をおろし自然を見つめ続けた祖先たちの暮らしや心情を思い起こすととともに、自然から一歩距離を置いて暮らす今の私たちが、「雪形」を観光資源といった狭い見のみではなく、自然を実感するひとつのきっかけとして、新たな雪形の効用というものを考えて活用できたらと思います。「雪形」が伝えるメッセージも、時代とともに人々の暮らしにのなかで変化していることを感じます。

参考文献

- ・ 1968 (昭和 43) 年 岩科小一郎 民俗民芸双書『山の民俗』岩崎美術社
- ・ 1981 (昭和 56) 年 田淵行男 『山の紋章 雪形』学習研究社
- ・ 1985 (昭和 60) 年 田淵行男 『黄色いテント』実業之日本社

(市立大町山岳博物館学芸員)



五龍岳の武田菱の雪形

平成 26 年度 第 13 回北アルプス雪形まつりのご案内

主催：北アルプス雪形まつり実行委員会

□雪形写真展

会場：大町市大町ギャラリーい〜ずら

日程：平成 26 年 5 月 10 日(土)～6 月 8 日(日)

時間：午前 10 時～午後 5 時

内容：写真で見える安曇野の雪形と解説・雪形ビデオ上映

□雪形講演会

会場：大町温泉郷森林劇場

日程：平成 26 年 5 月 10 日(土)・5 月 17 日(土)

時間：午後 8 時～午後 8 時 30 分(引き続き、和太鼓ステージ)

講師：渡辺逸雄氏(あづみ野雪形研究会会長)

内容：「北アルプスの雪形」の解説

問い合わせ先：市立大町山岳博物館 (TEL0261-22-0211)

□雪形ウォッチング

日程：平成 26 年 5 月 18 日(日)・5 月 24 日(土)雨天決行

時間：午前 6 時 45 分～午後 1 時前後

移動：マイクロバス(16 人定員)

費用：高校生以上 500 円、中学生以下無料

コース：大町市役所集合ー白馬村ー大町市美麻ー大町市パノラマロードー安曇野市豊科ー池田町ー大町ギャラリーい〜ずらー大町市役所

申込み：大町市観光協会 (TEL0261-22-0190) 先着順となります。

博物館では、毎月第3日曜日(家庭の日)とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。
5月は17日(土)と18日(日)です。

ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」がオープンしました



店長の山内さんご夫妻です

黒部ダムオープンにあわせ、博物館のミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」が4月15日に新装オープンしました。店名の「もるげんろーと」はドイツ語(Morgenrot)で、曙光を意味します。北アルプスがピンク色に染まる夜明けの光をイメージして名付けられました。実際、奥さんが20歳の頃に北アルプスのモルゲンロートを初めてご覧になり、以来北アルプスの、そして大町のファンとなり、24年前に京都からこちらに家族とともに移住され、その時の初恋のような思い出が店名となりました。実は、ご存知の方もおいでになるとは思いますが、以前の喫茶「こまくさ」が開店した最

初の時にも、運営に携わったことがあり、今回で2回目の博物館での経営となります。

店長の山内さんからは「観光客や地元のお客様に、博物館のくつろぎのひと時をこれまで以上に感じていただけるように、ミュージアムカフェ・ショップの果たす役割を考えながら企画・運営を行い、観光客の皆様と地域の方々の交流の場となり、より多くの皆様にご来館して頂けるように微力ながら頑張りたいです」との抱負をお聞きました。

ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」では、地元の食材や季節の野菜を使ったキッシュ・セット等を、また地元東山の湧水を使ったこだわりの挽きたて無農薬完熟珈琲、手作りケーキなどをご用意し皆様をお待ちしております。友の会の皆様の特典として珈琲の割引もありますので、お友達とお気軽にご利用ください。

またショップ部門では、地元北安曇地域のものにこだわった商品を販売しております。地元の間伐材を使った作品や工芸品、地元作家の齋藤清さんのデザインのTシャ

ツや帆布のトートバックなど、ここでしか手に入らないオリジナル商品もご用意しておりますので、旅の思い出にお求めいただけたらと思います。

ミュージアムカフェ・ショップの営業日につきましては、シーズン(4月～10月)中は、博物館の開館日にあわせ営業を行ないます。営業時間は午前9時30分から午後4時30分まで。シーズンオフ(11月～3月)の間は、金・土・日曜日の営業を予定しています。その他祝日など入館者の便宜を考え開店いたします。なおシーズンオフの営業時間は、午前10時から午後4時までです。皆様のご来店をお待ちしております。



店長こだわりの商品が並ぶ店内

観光ボランティア養成 研修会を開催



平成26年3月23日(日)、博物館リニューアルオープンに先立って、大町市観光ボランティア養成の一環として11名の皆さんとそのお子さんたちを対象に、ボランティア研修会が行われました。

博物館の学芸員・専門員の解説により、新しくなった館内の展示の数々に、参加した子どもたちは「化石がたくさんあってびっくり。動物のはく製もリアルで本物のよう」など興味を抱いて頂きました。

また皆さんからは「今まで以上に市民に愛される博物館となるのではないか」「大町の先人が山とともに生きてきた歴史を学び、これを誇りに、市外の人々にご案内をしていきたい」との感想が聞かれました。

友の会展示解説 ボランティア研修会を開催



平成26年3月23日(日) 午後、大町山岳博物館友の会サークルボランティアの会の皆さん10名が、今後予定をしている展示解説ボランティアの事前研修会に参加されました。参加された皆さんは、新設された展示を中心に、博物館の職員より解説を聞きながら、熱心にメモを取り、展示のねらいや展示品について学びました。

展示解説ボランティアは、これまでもゴールデンウィークなどの期間を中心に実施し、来館者の皆さんに博物館での学びの楽しさを伝えてきて頂きました。今後とも博物館と連携をはかり、協力しながら、おもてなしの心をもって博物館からのメッセージを伝えてまいりたいと思います。

公式 Web サイトをリニューアル!



山岳博物館は、公式 Web サイトを1999(平成11)年に立ち上げ、企画展やイベントなどのお知らせをはじめ、3階展望室から見た北アルプスの風景や付属園で飼育展示している動物たちの表情を毎日更新するなど、情報発信に努めてまいりました。

この度、博物館の外郭団体である「大町山岳博物館友の会」の支援により Web サイトをリニューアルすることができました。より見やすく、充実した内容を皆様にお届けできるようになりましたので、是非、一度アクセスしてみてください。

市立大町山岳博物館公式 Web サイト
URL : <http://www.omachi-sanpaku.com>